

目 次

序章	1
第1節 研究の目的と意義	3
第2節 先行研究と本研究の位置	9
第3節 本書の構成及び史料	17
第1章 日清戦争前の清韓関係	25
第1節 西力東漸と清韓両国の対応	27
第2節 清国の対朝鮮政策と在韓清国人	37
第3節 列強と清韓宗属関係	42
第4節 小括	58
第2章 日清開戦と清韓関係の変容	67
——在韓清国人の法的地位の変化を事例として——	
第1節 東学党の乱と日清間の撤兵交渉	69
第2節 清韓間の国交断絶と在韓清国人の引き揚げ	75
第3節 日韓攻守同盟と在韓清国人	79
第4節 小括	83
第3章 清韓間の無約通商	89
第1節 日清戦争後の清韓両国の弱体化	91
第2節 清国の「親露防日」政策と朝鮮	100
第3節 清国の対朝鮮「通商方法」と在韓清国人	105
第4節 小括	116

第4章 清国の条約交渉への方針転換	123
第1節 清国の連日外交	125
第2節 朝鮮の「独立」—大韓帝国の成立	130
第3節 光緒帝と対朝鮮条約締結問題	135
第4節 小括	142
第5章 清韓間の近代国家間関係の成立	147
第1節 清国の条約案	149
第2節 清韓間の近代的外交儀礼の採用	153
第3節 清韓間の条約交渉	157
第4節 小括	169
終章	175
第1節 日清戦争と清韓関係の再編	179
第2節 中韓通商条約締結後の清韓関係	186
付録	189
参考文献	217
あとがき	241